

編集後記

2005年10月1日に、阪神高速道路公団は民営化されます。1981年に創刊した「技報」は、今回で第22号となりますが、阪神高速道路公団監修の「技報」は、この号が最終となります。

創刊時～90年代前半は、計画部門および橋梁を中心とした建設部門に関する論文が数多く掲載されてきました。これが90年代後半からは、トンネルや地下構造物を中心とした建設部門、維持管理部門および環境対策部門が増え、最近ではコスト縮減を図る技術の紹介が多くなってきています。これらを見ると、その時々々の社会情勢を反映していることがうかがえます。

ところで、今年、阪神淡路大震災10年を迎え、近年、我々の「安全・安心」を脅かす自然災害や事故が多発し、多くの人命が失われております。これらの中には、技術に絡んだことが要因となっているものも含まれていると思われます。技術者の使命は、起こりうる問題点を想定し、その発生を未然に防ぐことにあると思われます。そのため、日頃から技術研鑽に努めなければなりません。

今回の「技報」では、コスト縮減を考慮した構造物の設計、維持管理などの論文が掲載されています。それらには、これまで発生してきた課題やその解決方法が紹介されております。これを読んで頂いた多くの技術者が、今後の技術を発展させていくうえでの一助になれば幸いです。

前述のとおり、公団監修の「技報」は最終号となりますが、新しい形で民営化後の公団技術を皆様にご紹介できることを楽しみにしております。

最後になりましたが、「技報」第22号の発刊にあたりまして特別論文を執筆していただきました京都大学名誉教授 足立紀尚先生、編集委員長で巻頭言を執筆いただきました幸審議役をはじめ、論文執筆者ならびに編集委員・幹事の方々には多大なお苦勞をおかけいたしました。厚く御礼申し上げます。

(管理技術センター 開発情報部)